

令和3年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

目指す学校像	新しい時代を切り拓く たくましく 創造性豊かな実践的技術者を育成する
--------	------------------------------------

重点目標	1 専門教育の深化と学力の向上を図り、第一志望の進路を実現する力を育てる 2 自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる 3 地域等との連携を深めるとともに、積極的な情報公開に取り組む
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	18名

学 校 自 己 評 価							
年度評価(1月31日現在)							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・生徒はやさしく穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・進学者が増加傾向にある。 【課題】 ・専門教育を深化させ生徒の学習意欲をさらに高めるとともに、確かな職業観を育成する必要がある。 ・三観点評価の研究に取り組む必要がある。 ・進学希望者をはじめ、継続教育に対する生徒の高い志を育成する必要がある。 ・学科を越えて生徒が互いに交流し、学び合う機会を提供する必要がある。	○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 ○観点別学習評価の研究 ○進路実現100%に向けたキャリア教育の実践	①新型コロナウイルス感染拡大による学校の休業に対応できるICT教材の作成及び授業改善や授業公開の実施 ②三観点評価の研究による授業実施 ③各学年における段階的指導の実施	①ICTの活用状況と各教科におけるデータの共有 ②新学習指導要領における、三観点評価の進捗状況 ③生徒の進路意識の向上と進路実現に向けた取り組みの状況	①生徒の授業アンケートでは、普通科目は88.9%、専門科目は75.1%の生徒が「わかりやすい」と回答しており、昨年度より、普通科目は7.7%、専門科目は1%増加した。 ②ICTを利用した授業改善を教務部が中心になり行った。ICT研修会を開催(5/25、10/20)するとともに教職員の共通理解のもと、授業映像の配信を行い、積極的に活用をした。 ③県指定の「未来の職業人材育成事業」を実施し、より専門教育の深化が図られた。 ④各学年で、Google Classroomを活用し、基礎学力の向上につなげた。進路指導部では、計画的・系統的に3年間を見据えた進路説明会を計画実施できた。今年は、第1希望企業への内定率は82.6%であった。2回目の受験で全員合格し、就職率100%であった。	B	①ICTを活用した授業が多くなっている。今後も教務部を中心に、引続き授業研究に取り組む。 ②県の事業を積極的に活用し、地域や企業等との連携を更に推進するとともに、工業高校の特色を生かした教育につなげていく。 ③新学習指導要領における、三観点評価の実施に向け、講師を招いて研修会を行った。来年度からの実施に向け、今後、各教科・学科で検討し、来年度へつなげていく。 ④進路意識を早期に持たせることにより、希望通りの進路実現を目指す。そのためにも、色々な場面で基礎学力の向上へつなげたい。
2	【現状】 ・挨拶・身だしなみ・清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・コロナ禍において、部活動や生徒会活動などが、制限内で自主的・主体的に行われている。 【課題】 ・生徒一人一人を高校生活に前向きに取り組ませる必要がある。 ・部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援するとともに、自校に誇りを持たせ取り組ませる必要がある。	○生徒の心身の成長と規範意識の向上 ○部活動・生徒会活動等による体験活動 ○資格取得やコンテスト等への挑戦	①組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等を実施する。 ②部活動や生徒会活動、地域交流・ボランティア等を通して、生徒の多様な体験活動を支援する。 ③志を高め、確かな職業意識を確立させるための講演や特別講義を実施する。	①遅刻・欠席者数、生徒の挨拶、身だしなみ、清掃など、基本的な生活習慣の状況 ②学校行事・部活動・生徒会活動の取り組み状況や地域交流・ボランティア活動への参加状況 ③外部講師等の活用状況及び資格取得やコンテスト等への取り組み状況	①感染予防の観点から、教員と保護者の協力のもと、あいさつ運動や声かけ運動が行われた。元気に挨拶をする生徒が多く駐輪マナーもよい。生徒の挨拶や身だしなみは良好である。 ②コロナ禍の中、学校行事の保護者公開を見送ったが、規模を縮小し、体育祭や工業祭等を感染予防を徹底して開催した。 ③「高校生ものづくりコンテスト埼玉県大会」では電気工事部門1位、化学分析部門1位、旋盤作業部門2位の結果で関東大会に出場した。難関国家資格の「第一種電気工事士」に22名の合格者を出す等、より高い目標に果敢にチャレンジする生徒が増えた。	B	①1年次からの学年全体での継続的な生徒指導が実を結び、学年が進むごとに、あいさつや身だしなみはほとんどの生徒が大変良好であるが、まだまだ、学校全体で生徒を見守る体制を更に強化するとともに、心のこもったあいさつや遅刻者の減少に結び付ける。 ②コロナ禍の中でも、学校行事や部活動・生徒会活動に対する保護者の理解の下、生徒がのびのびと活動できるよう、安全・安心な環境の提供に努める。 ③「ホンモノ」に触れる機会を大切に、生徒の感受性・可能性やより高い目標を持たせるために、専門家や技術者などの外部講師を招へいする。
3	【現状】 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信している。 ・地域と連携した教育活動が行われている。 【課題】 ・「社会に開かれた教育課程」の実現に向け取り組む必要がある。 ・HPの更新頻度を向上する必要がある。	○学校ホームページの更新と積極的な情報発信 ○社会と連携した教育活動の実践	①ホームページを活用し、日々の教育活動を積極的に発信する。 ②保護者や中学生のニーズに沿った、きめ細やかな情報提供を行う。 ③地域自治体や企業と連携した事業を積極的に実施する。	①ホームページの更新状況 ②保護者アンケートによる学校への満足度 ③社会と連携した取り組みの状況	①積極的に更新するよう情報発信に努めた。 ②各学年の学年日よりや保健室より、長期休業前の生徒指導部からのお知らせを発行している。保護者アンケートでは、92.4%の保護者から、「川越工業高校に入学して、充実している」と回答している。 ③コロナ禍の中、SDGsアクションフェスタへの参加、地元企業と連携したデジタル加工機の貸与等、地域や社会との連携した取組を積極的に実施した。	B	①ホームページ委員会を組織し、ホームページの更新が、誰もが更新できるように改善に取り組む。 ②コロナ禍の中でも、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、工業高校の特色を生かした地域連携に取り組む。 ③次年度も今年度以上に地域や社会との連携に積極的に取り組みたい。

学校関係者評価	
実施日	令和4年2月3日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①生徒の授業アンケートでは、約8割の生徒が「わかりやすい」と回答し、意欲的に取り組んでいることがわかる。先生方の丁寧な指導が、生徒の学習意欲を高めているものと思われる。 ②教務部が推進しているICTを利用した授業改善については、教職員で共有しながら一層の推進を図っていただきたい。 ③新学習指導要領導入に備え、新たな資質・能力の育成のためのカリキュラムマネジメントの再構造化に大きな期待を寄せています。 ④Google Classroomを活用した授業配信や教材配布等は、コロナ禍における学習保障に大きく役立ったと思います。	
①登校指導に立ち合い、あいさつ、身だしなみは生徒によってまちまちであると感じた。昨今の個人主義意識の高まりもあると思いますが、あいさつは大事なことと考えます。気持ちのよいあいさつ習慣が皆に定着することを願っています。 ②コロナ禍の中、体育祭や工業祭等の学校行事を保護者公開をしない中でも感染予防を徹底し開催したことは、生徒の成長になったと思います。楽しく取り組んでいる生徒の様子に安心しました。 ③ものづくりコンテストの上位入賞や難関国家資格に合格者を出していることは、生徒に高い目標に向かって努力することやチャレンジすることを日々の学校生活で指導しているからこそだと思います。各専門教育の充実とともに志や職業意識の向上に向け、今後も指導していただきたい。	
①ホームページはトピックスも多く、見る側にとっても興味深いものが多いと思います。委員会を作るという事で、楽しみにしています。 ②保護者アンケートにて、「高校生活全般について」「入学してどのように感じていますか」の質問に90%が肯定的な回答をしています。この数字は極めて高く、学校への信頼度の表れと考えます。 ③コロナ禍の中、地元企業、地域や社会と連携した取組を今後も積極的に推進していただきたい。	